郷土史への扉

シリーズ大隅国を知る ⑧

隼人の抵抗 ④

隼人の抵抗では、隼人側だけでも千四百人余りの死傷者がでました。前回は、この戦いで亡くなった人々の慰霊と滅罪のために宇佐八幡宮や鹿児島神宮で行われている放生会（浜下り）について述べましたが、今回は彼らの慰霊の地である「隼人塚」を紹介します。

国分の隼人塚（国分重久）

隼人の隼人塚（隼人町内山田）

一・二つの隼人塚

古代の人々にとって、地震や台風、天候不良に伴う飢饉、天然痘などの疫病の発生は、人心を惑わす怨霊や死者の祟りであると信じられていました。隼人の抵抗によって、多くの死者をだし、その祟りを恐れた人々は隼人の霊を供養するために隼人塚を設けました。

実は、霧島市には「隼人塚」と名のつくものが、国分重久と隼人町内山田の二か所にあります。

二・国分の隼人塚

国分重久にある隼人塚は、以前は塚になっていましたが、現在は水田の中に石碑だけが残っています。

江戸時代末期の『三国名勝図会』には隼人塚のことが次のように書かれています。「本社（止上神社）の南西、三百十六間（約六〇〇メートル）にあり、水田の中に、小き林叢森然たり、是を隼人塚と號す、隼人が首塚なりといふ、…」。

隼人塚の周辺は真板田、猪切藪ともいわれています。以前は旧暦正月十四日の初猟の日に獲った猪の肉を、三十三本の竹串に刺し、それを塚前に立てて隼人の霊を慰める祭事を行っていました。

また、止上神社には江戸時代初めの慶長年間まで「王の御幸」という大祭が残っていました。この祭も隼人の霊を鎮めるために始まったものであり、正月七日から二十四日まで神輿が巡幸していた、と記録に残っています。

三・隼人の隼人塚

一方、隼人町内山田にある隼人塚は、基壇を設けて、中央に石塔を三基並べ、その周辺に四天王像を配しています。この配列は全国的に見ても非常に珍しく貴重であることから、大正十年に国指定史跡となり、調査や石塔・四天王像などの復元を終えて、現在は「隼人塚史跡公園」となっています。

隼人塚は、その名の由来や建立の時期・目的を含めて、謎の多い史跡でもあります。三国名勝図会には、「正国寺という寺の跡で、〝正宮（鹿児島神宮）の戒壇所〟と名付け、浜下りの神事を行った、その寺に四天王像と石塔残れり」と書かれており、隼人塚は正国寺の一部であったとされています。また、隼人塚の名も江戸時代には見当たらず、明治三十五年の『陸軍参謀本部地図』に「軍人塚」と記されています。隼人塚の名が初めて登場するのは、明治三十六年の『国分の古蹟』に「隼人塚、一名熊襲塚」と書かれており、これ以降隼人塚の名前が定着したようです。

三国名勝図会の隼人塚（国分重久）

四・慰霊の地として

いずれにしても二つの隼人塚は、隼人の御霊を供養する塚（供養塔）として造られたのは確かであり、その精神は「浜下り」という形で今日まで続いています。

平成三十二（二〇二〇）年には、隼人の抵抗が起きて一三〇〇年目を迎えますが、それまでに隼人塚をはじめ隼人にまつわる遺跡や出来事について、少しでも解明できるようにしていきたいと思います。

（文責＝鈴）